

理科(地学) 東北大学 経済学部 (理系)、理学部、農学部 前期

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

記述・論述・計算・記号選択・数値選択

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	語句選択, 記述・論 述・計算	天文 (恒星)	地学	火星における太陽放射量, 白色矮星の半径と惑星が受ける放射量, 白色矮星の光度変化など, 恒星の光度, 表面温度, 半径に関連する問題である。	標準
2	記述, 論述	大気と海洋 (大気中の水)	地学	雲の発生に関連して, 大気の安定・不安定, 雨滴の成因に関する問題である。	標準
3	記述, 論述 計算	固体地球 (プレートの 運動, 地球の 形)	地学	球面上の移動速度の計算, 地球楕円体とジオイドの説明, アフリカ南部におけるジオイドの高まりの原因, 磁気異常の縞模様分布など, プレートの運動と地球の形に関連する問題である。	標準
4	記述, 論述	岩石・鉱物 (火山, 鉱物)	地学	火山岩の分類, 固溶体, 石英の結晶構造, 火山の形とマグマの粘性, 爆発的な噴火の機構など, 火山に関連した問題である。	標準
5	数値選択, 記述, 論述	地史 (総合問題)	地学	地球の誕生や古生代末などの年代の数値, 全球凍結の証拠, 大量絶滅, 南極周極流の形成など, 地球の歴史に関連する問題である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本年度は、地学の全分野から出題された。天文分野の問題は、毎年出題されるが、それ以外の分野は、出題がない年度があるとはいえ、どの分野が出題されても大丈夫のように、地学の全分野を学習しておこう。地学基礎の内容も含まれるので、啓林館と数研出版の地学と地学基礎の教科書を購入して、しっかりと読んでほしい。

本年度の計算問題に難しいものはなかったが、計算問題で点数に差が出やすい。過去問を用いて、多くの問題を解いておこう。論述問題は50～100字程度を目安に、典型的な問題を練習しておこう。

また、東北大学の過去問に、かなり似た問題が例年出題されている。できうる限り年度を遡って、問題を解いておこう。